

④	③	②	①
ウ	足のうらにはりがささったから	ピーター	ア

「かいせつ」

文しょうのつぎの場^ばしよに書かれています。

①「おれにふみつぶせないものなんてないんだぞ。

お前もふみつぶされたいのか。」

ぞうのルーカスは、おけるとすぐにこう言うの

で、まわりのなかまはいつもびくびくしていました。

ある日、ハリネズミのピーターがルーカスのな

かまになりました。ピーターはルーカスに聞きました。

「どうしてルーカスは、いつもみんなをこわがせているんだい。」

すると、ルーカスはこう答えました。

「おれさまに、ふみつぶせないものなんてないからだ。それに、おれが一番からだが大きいからだ。」

そう言ってわらうルーカスに、ピーターは言いました。

「ぼくは、ルーカスでもふみつぶせないものを知っているよ。どうだい、ためしてみるかい。」

ピーターのことばにおこったルーカスは、ちやうせんしてみることにしました。

「じゃあ、ぼくをふんでみてよ。」

「おいおい。小さなお前なんて、あつと言うまにぺちゃんこになるぜ。」

ルーカスはわらいながら、ピーターをふもうとしました。すると、

「イタッ、イタタタタ。」

ルーカスがとつぜん、大きな声を出しました。⁽²⁾ピーターが、からだのはりをぴんつとのばしていた

のです。足のうら⁽³⁾にはりがささったルーカスは、

なみだ目になってしまいました。ピーターは、

「ねっ。大きなルーカスにもふめないものがあつたでしょう。」

と言って、にっこりわらいました。

③		②	①
手に入れたもの (大切な)友だち	一番	イ	どちらがはやいか、 うんどう会でけっちやくを つけることにしたから

「かいせつ」

文しょうのつぎの場^ばしよに書かれています。

「いちについて、ようい……。」

大きなピストルの音とともに、しょうたは走り

出しました。きょうは、うんどう会です。しょうたは、この日のために、ひみつのれんしゅうをしてきました。

一週間前、しょうたは友だちのたいきと、どっちがはやく走れるかケンカになりました。二人とも自分の方がはよいと言うので、うんどう会でけっちやくをつけることにしたのです。

しょうたとたいきは、いっしよに走り出しました。二人とも、今のところ一番です。あともう少しでゴールです。

「ぜったいに、たいきにはまけない。」

そうつぶやきながら、しょうたがさいごの力をふりしぼろうとしたときです。となりで走っていた、たいきがころんでしまったのです。しょうたは、まよいました。このまま走っていけば、たいきにかてる。でも、たいきの足からちが出ているのに、そのままにしておいていいのだろうか。なやんだしょうたは、たいきのところへ走り出しました。

しょうたは、たいきにかたをかしてあげながら、二人でいっしよにゴールしました。^③二人とも一番は手に入れられなかったけれど、大切な友だちを手に入れました。

③	②	①
からだのはりをぴんつと のばした	ア	ハリネズミのピーター

「かいせつ」

文しょうのつぎの場しよに書かれています。

ある日、ハリネズミのピーターがぞうのルーカスのなかまになりました。ピーターはルーカスに聞きました。

「どうしてルーカスは、いつもみんなをこわがせているんだい。」

すると、ルーカスはこう答えました。

「おれさまに、ふみつぶせないものなんてないからだ。それに、おれが一番からだが大きいからだ。」

そう言ってわらうルーカスに、ピーターは言いしました。

「ぼくは、ルーカスでもふみつぶせないものを知っているよ。どうだい、ためしてみるかい。」

ピーターのことばにおこったルーカスは、ちようせんしてやることにしました。

「じゃあ、ぼくをふんでみてよ。」

「おいおい。小さなお前なんて、あつと言うまにぺちゃんこになるぜ。」

ルーカスはわらいながら、ピーターをふもうとしました。すると、

「イタッ、イタタタタ。」

ルーカスがとつぜん、大きな声を出しました。ピーターが、からだのはりをぴんつとのばしていたのです。足のうらにはりがささったルーカスは、なみだ目になってしまいました。ピーターは、

「ねっ。大きなルーカスにもふめないものがあつたでしょう。」

と言つて、につこりわらいました。



③		②	①
手に入れたもの (大切な)友だち	一番	ウ	となりで走っていたはるなが ころんでしまった

「かいせつ」

文しょうのつぎの場^ばしよに書かれています。

「いちについて、ようい……。」

大きなピストルの音とともに、さくらは走り出しました。きょうは、うんどう会です。さくらは、

この日のために、ひみつのれんしゅうをしてきました。

一週間前、さくらは友だちのはるなど、どっちがはやく走れるかケンカになりました。二人とも自分の方がはよいと言うので、うんどう会でけっちやくをつけることにしたのです。

さくらとはるなは、いっしよに走り出しました。二人とも、今のところ一番です。あともう少してゴールです。

「ぜったいに、はるなにはまけない。」

そうつぶやきながら、さくらがさいごの力をふりしぼうとしたときです。となりで走っていた、はるながころんでしまったのです。さくらは、まよいました。このまま走っていけば、はるなにかてる。でも、はるなの足からちが出ているのに、そのままにしておいていいのだろうか。やんださくらは、はるなのところへ走り出しました。

さくらは、はるなにかたをかしてあげながら、二人でいっしよにゴールしました。^③二人とも一番は手に入られなかったけれど、大切な友だちを手に入れました。



① ぽかぽかと太ようの当たる 船の上で、ついうとうと ねむってしまったから		② イルカ	③ 家に帰ることができた	④ ウ
--	--	----------	-----------------	--------

「かいせつ」

(1) (3)は、文しょうのつぎの場^ばしよに書かれています。

「おうい。だれかおらんかのう。」

おじいさんは、海にむかってさげびました。でも、だれもへんじをしてくれません。

おじいさんは船の上で魚つりをしていました。

①
ぽかぽかと太ようの当たる船の上で、おじいさん

はついうとうとねむってしまいました。少しさむいなどおじいさんが目をさますと、そこは海のまん中だったのです。おじいさんがすんでいるりくが、どこにも見えません。こまったおじいさんは、だれもない海で一人たすけをもとめました。

しばらくすると、船の後ろの方からぽちゃんとう水の音がしました。おじいさんがあわててふりむくと、いっぴきのイルカが水の中から顔を出しています。おじいさんはイルカにおねがいました。「なあ、イルカさん。どうかこの船をりくの方に

おしてくれないかのう。」すると、イルカはおじいさんの目の前でくるとまわってジャンプをすると、水の中にもぐりました。そして、船をおしはじめたのです。船はぐんぐんスピードをあげてすすみます。イルカも楽しそうに船のよこでジャンプします。おじいさんは、イルカのおかげで家に帰ることができました。

(4) アは、文しょうに「イルカがつれた」とは書いていないのでまちがいです。イは、おじいさんは「少しさむいな」と思って目がさめたのでまちがいです。



④	③	②	①
イ	方におしてくれないか どうかこの船をりくの	イルカ	だれもない海で一人 たすけをもとめた

「かいせつ」

(1)～(3)は、文しょうのつぎの場^ばしよに書かれています。

「おうい。だれかおらんかのう。」

おじいさんは、海にむかってさげびました。でも、だれもへんじをしてくれません。

おじいさんは船の上で魚つりをしていました。ぽかぽかと太ようの当たる船の上で、おじいさん

はついうとうとねむってしまいました。少しさむいなどおじいさんが目をさますと、そこは海のまん中だったのです。おじいさんがすんでいるりくが、どこにも見えません。こまったおじいさんは、だれもない海で一人たすけをもとめました。

しばらくすると、船の後ろの方からぽちゃんとう水の音がしました。おじいさんがあわててふりむくと、いっぴきのイルカが水の中から顔を出しています。おじいさんはイルカにおねがいしました。

「なあ、イルカさん。どうかこの船をりくの方におしてくれないかのう。」

すると、イルカはおじいさんの目の前でくるとまわってジャンプをすると、水の中にもぐりました。そして、船をおしはじめたのです。船はぐんぐんスピードをあげてすすみます。イルカも楽しそうに船のよこでジャンプします。おじいさんは、イルカのおかげで家に帰ることができました。

(4) アは、文しょうに「イルカがつれた」とは書いていないのでまちがいです。ウは、おじいさんはイルカに「船をおしてくれ」とおねがいをしたのでまちがいです。



ちやうかえくすに ちちのせん。

ちやうかえを ちやうかえし じふを つくす。

※このから うぐすから ちちのせんは つかわせら ちやうかえか せうす。
その ちやうかえは 〇に かんめしち。



ちちの ちやうかえ せん だせ だく。

み	ず	だ	せ
---	---	---	---



うぐ (うぐ) の せんは じふ 「せう」 せう せう。

み	ち	う	じ
---	---	---	---



れんを つくす せれん ちちのせん。

せ	れ	れ	つ
---	---	---	---



かかえを せれん せれん だく せれん せれん せれん せれん。

せ	け	せ	け
---	---	---	---



ちちの せれん せれん だく。

り	ち	り	つ
---	---	---	---